

障がい者と健常者の間に 心の壁をなくすために

00 プロジェクトのテーマ設定

私たちには2人とも障がいを患った家族がおり、生活を送る中で健常者の方から心無い言葉をかけられること等あった。

また、身体障がいの方が快適に過ごせないような、バリアフリー・ユニバーサル化が進んでいない現状が多々ある。

しかし、その現状を健常者はあまり深く考えていないように思う。

私達はこの問題をなくそうと、SDGsにおける17の目標

「人や国の不平等をなくそう」

を基にし、障がい者の方に優しい社会形成の第一歩としてこのテーマを設定した。

01 目標と計画

6月

- ・企画
- ・アポイントメント取り

7・8月

- ・必要書類作成
- ・会場/内容詳細決定

9月

- ・話し合い
- ・協力者決定
- ・イベント準備

10月

- ・最終準備
- ・打ち合わせ
- ・本番

02 プロジェクトの実施内容

よさこい
/ ステージ

音楽・ダンスは国境関係なくだれでも楽しめる。
→障がい者も健常者も関係ない。

製品・食品物販

障がい者の方が作った軽食・製品・服飾品を販売。
→どんな取り組みをしているか知ってもらおう。

車イス体験

障害物がある短いコースを作成。
→普段乗ることのない車イスに自ら乗って不便さを体験する。

来場者アンケート

本イベントが来場者にとってどうであったかをアンケート。
→来場者の意見に触れることで改善点や継続点を調査。

03 プロジェクトの成果・まとめ

成果

当日は約960名の来場者

→**想定**の9倍の人数

地元の文化と組み合わせたことが、沢山の方の興味を惹きよせ、より多くの方に『障がい』について知ってもらえた。

まとめ

私達高校生が障がいについてメディアやSNSを使用し沢山の人に発信することで、老若男女問わず来場され、アンケート結果からは「障がい者の方と話ができる良い経験になった」「これからはもっと障がい者に優しくしたい」という本イベントが意味を持ったと言えるお声を数多く頂いた。

04 今後の課題・展望

課題

・一般の方が多く、車イスで来場された方の身動きが取りにくそうだった。

・休憩時間に障害者差別解消法等の障がいに関する講和時間を設けたら、より深いイベントになった。

展望

・障がい者理解ステッカーのようなものを作って、来場された方に配布し、車や持ち物に貼ってもらうことで、高知から『あったかい社会』を形成出来るようにしたい。